



静内ロータリークラブ会報

2015～2016年度 <会長>福田 義信 <幹事>土屋 祐喜
創立 1971年(昭和46年)6月28日



2015年(平成27年)12月16日 本年度第23回例会 通算2168回例会

《 前回例会記録 第22回(通算2167回) 2015年(平成27年)12月9日 》
会員数 68名 出席免除会員2名 出席 44名 欠席 22名 出席率66.7% 前回修正90.01%

会長の時間

クラブ年次総会において2016-2017年度理事役員も決定し増本・四ツ屋年度が素晴らしい一年になる事を期待しております。ガバナー月信に職業奉仕について記載がありました。
(卓話とともに添付別紙参照ください。)



報 告

2016-2017年度理事・役員・会計監査役

| | |
|----------------------|-------------------|
| 会 長 : 増本 裕治 | 直前会長・規定担当 : 福田 義信 |
| 会長エレクト : 河原 秀幸 | 会長ノミニー : 真下 明 |
| 幹 事 : 四ツ屋 義道 | 会 計 : 河田 貢 |
| 会場監督 : 福原 啓介 | 職業奉仕担当 : 山田 一孝 |
| 社会奉仕担当 : 不動 新作 | 国際奉仕担当 : 荒川 雅喜 |
| 青少年奉仕担当 : 高田 敏文 | 副 幹 事 : 河田 貢 |
| 会計監査役 : 近藤 忠義, 樋口 和美 | |



佐藤選考委員長

幹 事

米山記念奨学会・財団より寄付金明細が届いております。

親睦委員会

【ニコニコBOX】

- 西村会員：農協役員の方のG1優勝の際の新聞掲載
- 谷会員：囲碁大会での新聞掲載
- 見上会員：中山競馬場での愛馬優勝2歳レース
- 増本会員：次期理事役員決定しましたので

川村親睦委員



コラム 《クラブの仲間》

在田 恒昌 会員

(有)在田商店代表取締役

創業 76 年目に突入して私で 3 代目になります。パート含めて 14 名の精鋭で従事しております。当町を中心に事務機器の営業販売・文具・事務用品の店舗販売と工事現場等の仮設事務所への事務機器のレンタルもしております。公共施設の備品や消耗品の販売しております。福祉機器（車椅子など）やオフィス家具の販売も手掛けております。医療機器 AED も当店で販売しております。クラブの仲間の事業所にも設置要望あればお気軽にご相談下さい。



新谷 寧 会員

北海道電力(株) 静内水力センター・静内電力センター所長

昭和 59 年 4 月に入社し平成 25 年 4 月に静内に赴任しました。現在 68 名の大所帯ですが日々安全に電力供給するために力をあわせて頑張っております。水力センターは奥新冠発電所から双川発電所までの新冠 4 か所静内 5 か所の 9 つの発電所の保守点検作業しております。電力センターは厚賀変電所からえりも変電所まで 9 つと開閉所 2 か所の接続する送電線の保守点検作業しております。視覚的検査や登って検査もします。

電気主任技術者Ⅰ種取得しています。最大 18 万 7 千ボルトにもなりますので統括するにはこの資格が必要です。当社へのご理解・ご協力今後とも宜しくお願い致します。



海原 弘行 会員

ひだかトヨタ自動車販売合同会社 しずない東店 店長

昭和 52 年 4 月トヨタカローラ室蘭静内支店に入社して富川店など経て平成 24 年 10 月に店長に就任し現在に至っております。当店の最大の特徴はトヨタ車を VITZ からクラウンまで全車種取扱いをしている事です。今オススメはなんと言っても 6 年ぶり 4 代目プリウスです。燃費も 2 割向上しリッター 40.8km、4WD 車で 34.0km の低燃費で「走りの楽しさ・乗り心地の良さ静かさ」が大幅に向上しております。2WD で 245 万 2778 円～4WD で 269 万 7251 円～是非お問い合わせください。



会長の時間

本日はクラブの定期総会ということで、時間の関係上総会後に時間を頂きましてお話しさせていただきます。先程、クラブ定期総会において2016年～2017年度の理事役員が決定したことは誠に喜ばしいことです。増本、四ツ屋年度が素晴らしい年度でありますことを期待しております。

今日は毎月発行されておりますガバナー月信にロータリーの職業奉仕について大変に興味深く、参考になる連載の文章がありますので紹介をさせていただきます。連載した方は札幌東RCの塚原房樹会員です。塚原さんは2005年～2006年に、2510地区ガバナーを務められており、ロータリーの歴史、奉仕の目的などについては地区内で最も詳しいロータリアンの一人です。連載しているタイトルは「ロータリー来し方行く未」という題名でこの意味は「ロータリーの過去と未来」ということです。

ガバナー月信の10月号と11月号に、ついにやって来た職業奉仕の終焉というタイトルでの文章です。ラビンドラン今年度RI会長が、今年度の7月1日から下記のような会員特典プログラム「ロータリーグローバル・リワード」の導入を決定されました。「ロータリーの会員は世界中の数百もの企業・ビジネスから提供される特典を利用でき、参加企業数は現在も増えています。このプログラムは、ロータリアンが日々の生活のさまざまな場面で利用できる特典が含まれており、利用の度に財団に寄附が送られる特典もあります。そうして、このプログラムは、会員の満足度を高めて会員増強につなげることを目的としています。組織にとって会員数の停滞は衰退と死の始まりであります。そこで会員増強の起死回生の策としてこのような特典プログラムが生まれました。しかしこのプログラムは唐突として現れたものではなく、その前に数々の伏線がありました。以前から国際ロータリー(RI)で職業奉仕は死語となり、すでに落日の職業奉仕となっていました。ついにラビンドランRI会長の新方針によって、ロータリアン同士の物質的な相互扶助が認められるようになったため、長年ロータリー運動の精神的支柱であった「事業や職業における特典をほかのロータリアンに求めない」という「職業奉仕の中核精神」が消えてしまいました。

また、RI理事会は、退職した人や、現在専門職や仕事に従事していない主婦(夫)が含まれている、現在の多様なロータリークラブの会員に配慮して『ロータリアンの職業宣言』を廃止して、職業人にも一般の人にも通用する「ロータリーの行動規範」を創設しました。このことは事実上職業奉仕の終焉であります。

皆さんはこの「ロータリーリワード」に対して、どのようにお考えでしょうか、新しい酒は新しい革袋という言葉の通り、このRIの 変化を容認されるでしょうか、あるいは等閑に付される方もおられるでしょう。日本のロータリアンにとって職業奉仕は隣人愛の実践であって、あくまでも「個人の規範」たる倫理の問題です。しかし我々はRIという集団の構成員として組み込まれています。集団には集団の維持、発展させなければならないという使命があります。この使命に応えるのが集団構成員に課せられた義務であって、これが「集団の規範」たる道徳です。ここで問題になるのは、理想的な社会としては本来、愛の実践という「個人の規範」が優位に立つべきなのに、これは心の問題にとどまり、現実の社会は権力を伴う「集団の規範」が上位にあるということです。本来ロータリアンにとって職業は“Vocation(天職)”だったはずで、私は日本の伝統的職業観を長く伝えてゆきたいと思えます。

職業奉仕はロータリアンのアルファでありオメガであります。

それでは職業奉仕は本当にこれからの新しい時代には無用の長物なんでしょうか、歴史を振り返ってみると、すべての歴史上の諸制度は因縁があって栄え、そして因縁があって滅びると申します。ロータリーもその例外でなく、職業奉仕の精神があってこそ栄えてまいりました。まず1930年から1945年にかけてロータリーはアメリカ社会から 絶大な尊敬と信頼の目を以って迎えられました。何か確固として実践の軌跡を残したに違いありません。

一つは1929年、アメリカに端を発した世界大恐慌の時に、当時のシカゴのほとんどの企業、商店は倒産して市民達も一夜で職を失い、家を失ってしまいました。その中でロータリーの職業奉仕の訓えを守っていたロータリアンたちは、何とか倒産を免れていました。これを知ったシカゴの市民はロータリーの職業奉仕

の哲学は、「不況に強い哲学だ」という評判を立てたのであります。これによって、ロータリーは一気に有名になります。ロータリーに入りたいという人がどんどん増えてまいりました。これによりロータリーは隆々と栄え興隆期を迎えました。

二つ目は、アメリカは民間主導の福祉社会だから、労力と時間を割いてボランティア活動をするということはアメリカの国民にとって当然のことであり、別に尊敬と信頼の目を持って迎えられということはありませんでした。またロータリーが為すべきことでもなかったでしょう。ではいったい職業倫理の提唱団体として具体的に何をしたのでしょうか。ロータリーが出来た時アメリカの経済社会に、同業組合は1つもありませんでした。これを当時のロータリアンたちは、自分の業界に作っていきました。

公共に奉仕する現代の「ギルド」の復活です。このことは商工会議所を、倫理を提唱する団体として蘇らせました。ロータリアンの数だけ同業組合が組織され、商業道德の高揚は著しいものがありました。この結果ロータリーに対するアメリカ社会の信用が高まり、ロータリーは爆発的に発展するようになりました。この二つはロータリーの職業奉仕がアメリカ社会に残した最大の功績なのです。

しかし1947年ポール・ハリスの死が歴史の分岐点となりました。その年、RIの職業奉仕委員会は廃止され事実上職業奉仕という言葉は死語となりました。そして始祖の死を悼みポール・ハリス・フェローに莫大な寄付が寄せられました。これにより30年間資金不足で開店休業であったロータリー財団が甦りました。財団が事業を展開するようになった結果、ポールの死後ロータリーの目指す方向が職業奉仕から財団主体の奉仕へと変わりました。この時からRIは人類の続く限り、一人でも施主の多からんことを望み、1\$でもお布施を増やし、限りなく永遠に金をつぎ込んでいかなばならぬ「火の車」からおりられなくなりました。

プロテスタントの職業転職論が、日本の伝統的職業観と見事に共鳴して、私たちの先輩は熱狂的にロータリーを信奉しました。職業奉仕こそロータリーの金看板だ、などというのは日本の風土が生んだ言葉です。このように職業奉仕は、日本のロータリアンにとって普遍の真理なのです。

今年度のラビンドラン会長の方針により、職業奉仕は終焉を迎えました。しかし我々日本のロータリアンは、ロータリーをロータリーたらしめているDNA、つまり、ロータリーの本質と存在理由を大切にしてくかねばなりません。「ロータリーDNAは何か」という問いの答えを明確に理解することです。

それはあくまでも個人の規範である職業奉仕への献身を絶対に見失わないことです。ここで大切なのは「時代に即すことと、妥協することは違う」ということです。時代に即すためにその組織のDNAをあっさり捨ててしまうような組織は長続きしません。信じる土台がなければ、たやすく流されてしまいます。

ロータリー運動とは、慈善団体、寄付団体ではありません。奉仕とは相手の不幸を自分の不幸としてとらえる純度の高い心の境地のことを云います。自らの存在理由を見失い、代わりにボランティア団体として自らを定義しようとしたときに、RIという組織は、組織の構成員であるロータリアンとの関連性を失い迷走するでしょう。先月の月信で、職業奉仕はロータリーの「アルファでありオメガ」とであると書きました。アルファとはギリシャ語アルファベットの最初の第1字、オメガとは最後の文字を表します。アルファでありオメガであるとは、事の始まりであるとともに事の究極であるという意味になります。職業奉仕はロータリーのアルファでありオメガであるということは、職業奉仕はロータリーの始まりであるとともにその行き着く究極である、すなわち、ロータリー運動にとって職業奉仕は「全て」であり「普遍」であるという意味です。ロータリアンが自分の職業に誇りを持ち、自分の職業を通じて地域社会に奉仕するという基本的態度をとりながらも、本質的にはロータリー運動は国境を越え、人間を人間として結び付け助け合うようにさせるものです。

我々のクラブには自治権があり、RIはロータリークラブ集合体にしかすぎず、上命下服の関係ではないことは当然であります。しかし、だからと言って我々はエバンストンでの出来事に無関心であっていいのか、という問いかけを私はしたいのです。職業奉仕は日本のロータリアンの精神的支柱であり、日本ロータリーのアイデンティティーです。我々は職業奉仕の精神を堅持しつつRIの奉仕に協力してゆく道を探りましょう。以上で塚原パストガバナーの文章は終わっておりますが、私達は今一度、職業奉仕の考え方の大切さを考えてみましょう。